

経営比較分析表（令和2年度決算）

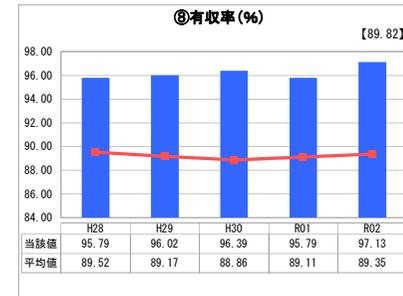
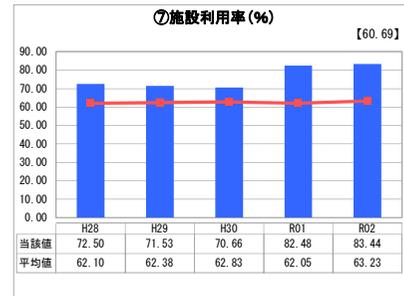
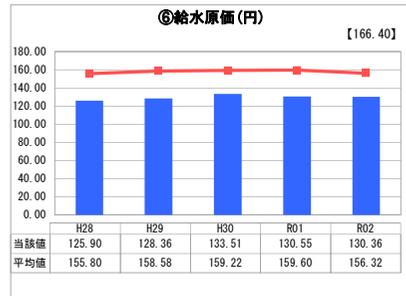
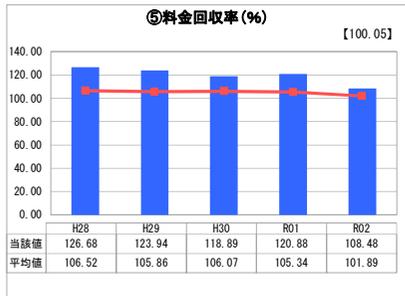
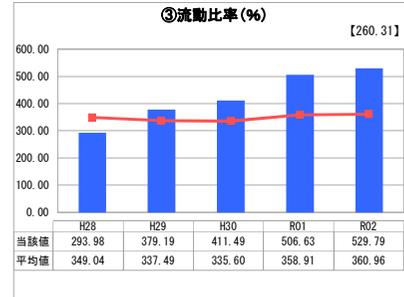
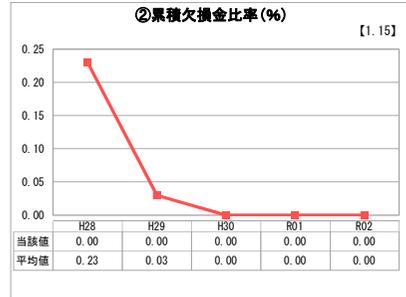
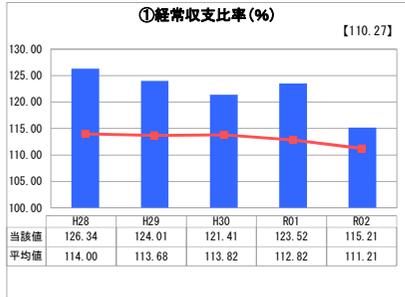
大阪府 羽曳野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	94.13	100.00	2,744	

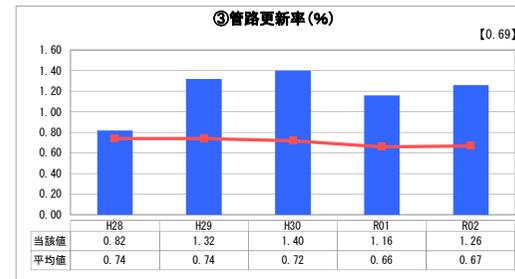
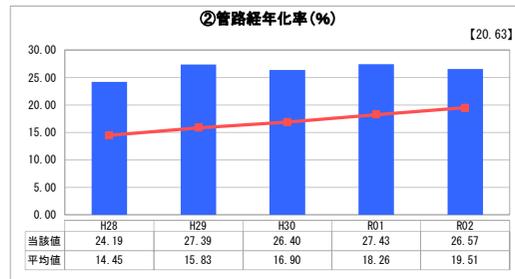
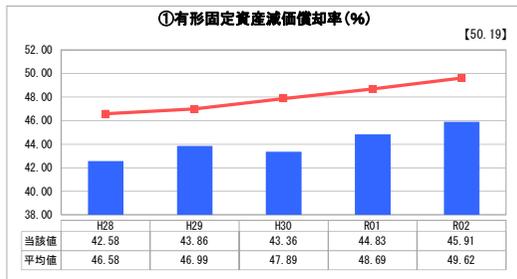
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
110,106	26.45	4,162.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
107,215	26.33	4,071.97

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

類似団体平均値と比較すると、前年に引き続き、①から⑧の全指標について、良好な数値であることから、健全かつ効率的な経営をしていると考えられる。

ただし、①経常収支比率、⑤料金回収率については、前年と比較して数値が減少している。主な要因は、新型コロナウイルス感染症の影響により家庭での使用量が増加し前年度に比べ年間総有収水量が増加しているもの、新型コロナウイルス感染症対策として、市民生活並びに経済活動を支援するための市独自政策の一つである水道基本料金の6カ月間全額減免を行ったことによるものである。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率が類似団体平均値を下回っている。②管路経年化率については、類似団体平均値と比較すると依然として高水準であるが、前年と比較すると減少している。これは③管路更新率が増加しており、類似団体平均値と比較すると約1.88倍を維持し、施設更新及び管路更新について着実に実施している。

全体総括

上記「1. 経営の健全性・効率性について」とおり健全かつ効率的な経営を確保するとともに、「2. 老朽化の状況について」とおり管路経年率は類似団体平均値と比べ高水準であることから、引き続き施設及び管路の更新を着実に進めていくことが重要であると考えられる。

ことから、第6次水道施設整備事業（7ヶ年事業）及び施設改良事業により、施設・管路の耐震化及び老朽化対策を着実に推し進めていく。一方で、経営についても、平成28年度に策定した経営戦略（羽曳野市水道事業ビジョン）に基づき、引き続き健全かつ効率的な経営を確保するよう努めていく。